

妙蓮花心色在焉

天

遠
770
2



門遠18
770
卷2

之部

明治三十八年十月十三日
坪内 氏寄贈

馬琴作

全四冊
已酉新板

女郎花五石室

第二集上卷之三



芝神明前
甘泉堂板

豐國画

三好町
本
三好町
本



豐國圖

甘泉堂

芝蘭堂

全四冊



豊国画

女郎花

馬琴作

下供上

己酉春
新刻

上供
上

女郎花五色石基第二集附言

鶯鷓能言も鳥多し離れぬ猩猩もものゝくも禽獸も離れぬ聲色
 使克似されども人異るれが自聲と離れぬ益人の適所も適て自適
 所も適も蒼蠅附驥のあり貌る是は莊周の笑ふ所佛も醒易
 かり所是も無明の生醉と文墨も亦相似するもの數百年の下に
 生れ數百年の上る奇文を最自由の折衷とて一家を傲する
 者東坡の所謂換骨奪胎博識才是と克を収其次の剽
 竊摸擬古哲の佳文を竊取て筆に花を添ふといふそれとも猶
 酷し其世其時と同じあるが思憚の関するや先達新奇大

筆の局と結びも結びぬ胡椒の図圖舌縮文として已が物
 傲せるあり利の走りて義疎人の好み成るといふも壁言他の
 犢鼻褌とて角觥を攪るて鄙言小似る者小あらざとせんや
 とむりふして五口も亦同由圃の瘦牛菊煮る炙りせられぬ
 巧拙十把一勝の足をいせ洗ぬ長生まれ恥言兒戲の冊
 子もあるがふ毫も人の足跡を踏まぬ獨酌一本生酒の嫌ひて
 女の甘を上目と大人氣るも今茲の思作は是のなる五色石基
 女郎花を勿論実もあづける第二集を終るふあそ

弘化五年戊申太即月脱稿
嘉永二年酉正月吉日發板

曲亭馬琴識





蟻馬あひま

小藤ことう

あはれ殿や
ねふ又なる
夜に雪

浪花長者
三尾津久四郎



執事
安房守
實憲

蝶乃
糧千解や
小米花

惟光
棟利郎

人ひと 膚く

生

遊記

煤拂

死
穴人
市



張物

足^たの影^{ひかげ}
 把^{つか}の影^{かげ}



若城野わきぎの駿馬あやま

大^{あふ}見^{みの}
 岡^{かう}
 根^ね



鬼河原仁蘭大

高純



岩住
和四郎
東元

降も勢む
見ひ倒
雲乃巻
四高

稲妻の

跡を見え

天れ川

雷
関



女行者
稲妻

八九村小萬

この図は、江戸時代中期の浮世草子『お茶屋のうしろの山』の一場面を描いたものである。画面には、竹林の奥に隠れ、顔を手で覆って泣くか、あるいは苦しむかのような姿の女性が描かれている。彼女の周囲には、竹の葉や穂が密集して描かれ、情景の奥行きと孤独感を強調している。左下には、竹の葉の隙間から覗く別の人物の顔の一部が描かれている。右下には「お茶屋のうしろの山」という文字が記されている。





庚戌孟春新刻

児雷也直豪傑譚

十二編 折下亭作
十三編
十四編 一陽齋画

青陽石廳礎

二編 一筆芥主人作
四編 一陽齋豊國画

今業平芳の面影

初篇 仙果作
二篇 芳亭画

其家開月奴六

在彩巻入一折

いづれにせよ世に新しきものほめてしめしめ画解
を伝へ一目にん安んじきり

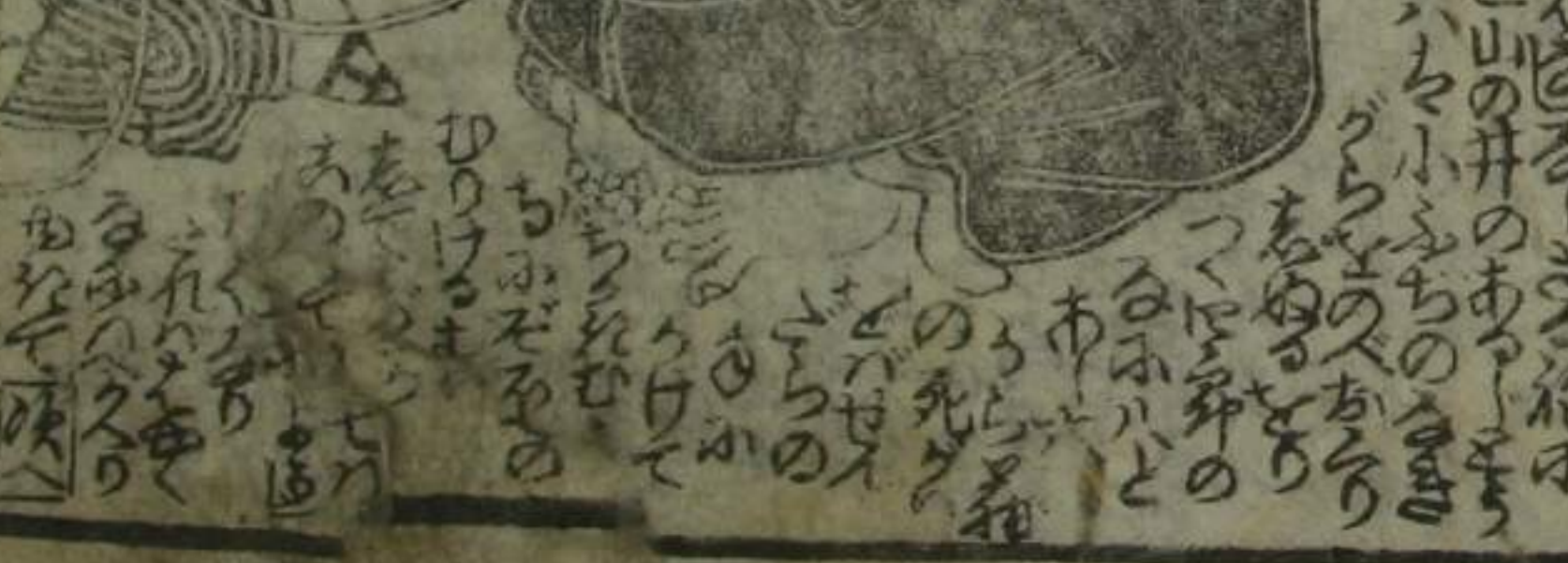




五色石三變三石



へきぢのまれのへちかぢぢ
 せうなるふとてなるを
 まれとやゆきとてや
 所はさうてさうけ
 まてこのまゝ九氣が
 とくさうこれよりまを



This woodblock print illustration, likely from a Japanese book, depicts a lush landscape scene. On the right side, a large, ornate building or pavilion with multiple tiers and traditional architectural features stands prominently. It is surrounded by dense foliage and trees. In the foreground, several figures, possibly children, are engaged in activities; one figure appears to be sitting on the ground, while others are nearby. To the left, there's a smaller structure or fence-like element. The background shows a body of water, possibly a pond or river, with distant hills visible under a sky filled with stylized clouds. The entire scene is framed by a decorative border. Extensive handwritten Japanese text is present throughout the image, including labels like "花" (flower) near a tree on the left and "池" (pond) near the water. Other text includes "中" (middle/interior) and "下" (bottom), suggesting different sections or levels of the scene. The style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.









例のとうふく口上
作者かての如女神は湯傷病人
ちのめお法を病み現あり又精製製
奇心九葉巻とてとまはれあり
世あつたといふはかゝるに腹
盤腹はたふ病人の災切の業
るといふは多たふ病をさ
ふさふさといふもあはる
取次明元坂田町中坂下南側
の浅沢氏とある由來を
千春万秋ゆてふ



馬琴作

豐國圖

女郎苑五色石臺

第四曲亭爲琴作輯一陽春堂畫

訓 教
女大 學 教 草
附 女 今 入

新編
金瓶梅
全部

教訓
女庭訓寶文庫
附 廿四孝八

曲亭馬琴翁作

嘉禾三成集

卷之四

和氣屋市之助

卷四

新設の石火油に
田舎の石火油
 油を注ぎて
火をつけて燃やして
 煙を出し、
その煙を
 煙管で引出し、
煙管の先を
 煙囪から外に出す。

卷之六

